

親



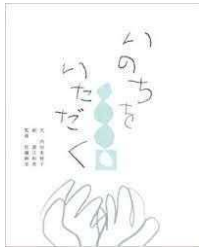
子

書名 ゆうちゃんのみきさーしゃ
 著者名 村上祐子
 絵 片山健
 出版社名 福音館書店

【エピソード】

この本は、小さい頃にプレゼントしてもらった本です。小さい頃からの私のお気に入りの絵本で、せりふも覚えるくらいたくさん読んでもらったり、自分で読んだりしていました。本の内容は、ゆうちゃんの作ったみきさーしゃでいろいろな場所へ行き、たくさんのもをみきさーしゃでまぜてできたアイスクリームをみんなで食べるという話です。「ぼくは ゆかいな みきさーしゃ なんでも おなかにぶちこんで ごろごろまわせば たちまちに すてきなおかしができてあがる」という所を、母と一緒に歌っていたのを今でもおぼえています。小さい頃の思い出がたくさんつまっていて、初心を思い出させてくれるこの本は私にとって宝物の絵本です。

わたし



わたし

書名 いのちをいただく
 著者名 内田美智子
 絵 諸江和美
 出版社名 西日本新聞社

【エピソード】

「いのちをいただく」は、わたしが3年生のときに図書館で見つけた本です。わたしはこの本を家に帰って読みました。とても感動するお話で、命の大切さについて教えられる本でした。この本に出てくる坂本さんは、牛を殺して肉にする仕事をしていましたが、坂本さんはその仕事をやめたいと思っていました。わたしは、妹や弟にも命の大切さを教えたいと思いました。

母



子

書名 幽霊ランナー
 著者名 岡田潤
 出版社名 金の星社

【エピソード】

私は、運動が大好きで「ランナー」という言葉が目に入ったので手に取りました。また、母もすすめてくれたので読んでみました。読んですぐ、私も主人公と同じ学校のクラスメイトになっていました。主人公の優とは何度も重なる部分があって、夢中になりました。本のタイトルに「幽霊」という言葉があったけど、少しドキッとするだけで、私を励ましてくれる本でした。この本から「何事もすぐあきらめない。ベストをつくす。自分に負けない」ことを学びました。これからは、母だけでなくいろんな人に教えたいです。

学校の先生



わたし

書名 教室はまちがうところだ
 著者名 蒔田晋治
 絵 長谷川知子
 出版社名 子どもの未来社

【エピソード】

私が、小学4年生の時の担任の先生が道徳の時間に読んでくれました。「教室はまちがうところだ」という題名を聞いたときに、すごく興味をもち、何度も読みかえました。当時、まちがえるのがこわくて、発表が苦手だった私は、この本の一言一言がすごくたくさん心に残りました。担任の先生が読んでくれたのをきっかけに、私はたくさん自分の気持ちを発表するようになり、発表の楽しさも知ることができました。



母 子

書名 あいうえおのえほん
 著者名 よこたきよし
 絵 いもとようこ
 出版社名 金の星社

【エピソード】

次男はダウン症という障害を背負ってこの世に生を受けました。ダウン症児であると知らされた時には、不安でたまらず、どう進んでいけばいいのか途方にくれたものです。そんな中、いもとようこさんの可愛い絵にひかれて書店で手にした「あいうえおのえほん」。毎日毎日読み聞かせをしていくと、次男はひらがなにもとても興味を示し、この本が大好きになり、私と次男の親子読書の楽しい時間の始まりの一冊「宝本」です。障害はあっても、可能性に満ちあふれていること。努力によってその可能性がひらかれていくことを教えてくれた一冊。この本との出会いにとても感謝しています。そして、ゆっくりであっていろいろな事にチャレンジし頑張っている息子に感謝。



母 子

書名 あやちゃんのうまれたひ
 著者名 浜田桂子
 出版社名 福音館書店

【エピソード】

この本は、娘が幼稚園の頃に初めて読んであげた絵本です。それからよく「この本読んで！」と持ってくるようになりました。小学生になると、自分で読む姿が見られました。この本を読んだ時、「私が生まれた日は、どんな日だった？」とたずねてくることがあり、「こんな日だね……」と娘が生まれた日の話をすることがありました。この本がなければなかなか「娘の生まれた日」の話をすることはなかったのかな、と思いました。私と娘にとって、娘の生まれた日を思い出させてくれる大切な宝本となりました。



母 子

書名 おこだでませんように
 著者名 くすのきしげのり
 絵 石井聖岳
 出版社名 小学館

【エピソード】

この本は、娘が3歳の時に、友人と私、娘と本屋さんへ行った時、私の友人からすすめられた本です。当時の私は、どこか心に余裕がなく、時間に追われ、少しのことで怒ってしまい、自己嫌悪になる日々を送っていました。この本を読んだ時、自然と涙が流れ、自分を見つめ直す機会を与えてもらいました。今でも、なんとなく見ては反省をしたり、違うことを感じさせてもらったりと私にとって、なくてはならない本になっています。



母 子

書名 いないないばあ
 著者名 まつたにみよこ
 絵 瀬川康男
 出版社名 童心社

【エピソード】

母親である私が赤ちゃんの時からある絵本で、自分の子どもにも読んであげたいと買ったのがきっかけです。赤ちゃんの時から大好きで、真似をしたり、くまやネズミを見ると「いないいないばあ」と言ったり、三角の物を見つけると「こんこんぎつねみたい」と言ったり、何でもこの本とつなげていました。小さい頃は読んであげていましたが、2~3才になると自分で読み出し、破れては「テープでとめて」と大事に読んでいた忘れられない一冊です。

(団体取組の部より)



毎週水曜日と毎月土曜日に公民館読書グループと司書で「おはなし会」を行っています。また、毎月23日の「子どもといっしょに読書の日」に関連して、23日に来室した子どもたちに折り紙プレゼントを行っています。さらに、毎月第4木曜日には「子どもといっしょに読書の日ミニおはなし会」を行っています。図書室内には、読書郵便コーナーや読書の本があり、利用者のおすすめ本を紹介しています。

[市町村] 鹿児島市 [所属名] 谷山北公民館図書室



蒲生中学校では、生徒からの要望で始まった、友達に自分の気に入った本をお薦めするコーナーを帰りの会などで行っている。給食時間の校内放送でも、自分のお薦めの本を紹介するコーナーがある。そこで紹介された本を探しに、昼休みの図書室を訪れる生徒も多い。生徒発信で根付いたブックトークは、「宝本を作ろう」のイベントを行うことで、ますます本の内容に共感を深めて、昼休みの図書室の雰囲気をやかなものになっている。

家庭においても、男子生徒が母親と好きな本が同じだったと蒲生中学校独自の認定書申請紙を記入して図書室に持ってきてくれた。身体が大きくなった男子中学生と母親が同じ本の良さについて語り合っているのを想像するとほほえましい。

中学校では自立を目指して、読書に限らず様々な取組を行っているが、令和の改元を振り返る時、情景と同時に本の名前が上がるように取り組んでいきたい。

[市町村] 始良市 [所属名] 始良市立蒲生中学校



宇都中学校では、各学年から「お気に入りの本」のエピソードを募集しました。その中から一部を選んで、図書室に掲示しました。

子どもたちのエピソードを読んで、それを見た子どもが、その本に興味を持ってくれたらと思います。また、子どもたち同士で、本について話すきっかけ作りになったらよいなあと、思います。

2か月ごとに、図書委員と司書補で掲示を変えていくようにしています。今後、宝本のPOPを募集して生徒たちに作ってってもらう予定です。

[市町村] 志布志市

[所属名] 志布志市立宇都中学校

